

緑の架け橋

会報第23号
2014年01月20日
日中緑化交流基金助成事業
プロジェクト代表：佐藤晴男

プロジェクトは今年で終わりますが、今だからこそ草の根の民間交流を！
～一滴が大河へと繋がるように～



三期目の呉忠市太陽山開発区・ニセアカシア

呉忠市植林前の三期目の原型



今だから緑の架け橋を

2002年11月緑の架け橋推進センター設立。これは日中緑化交流基金の助成を得た事業主催・IFCC国際友好文化センターの呼び掛けに応じてのもの。

2008年11月緑の架け橋推進センター解散。その後、「緑の架け橋」の活動は、事業主催のIFCC国際友好文化センターの下で「緑の架け橋プロジェクト」として継続され、2013年まで9つのプロジェクトを実施。8プロジェクトは終了。1プロジェクト継続中。

2011年度から、それまでの寧夏回族自治区に加え、河北省・遷西県でも開始し、継続中。訪問団は第19次までで199名。

2014年で手がけたプロジェクトは終了しますが、ご参加いただいた方々の心の中で「緑の架け橋」が育まれることを祈念します。最後の記念訪問団を9月に計画したいと思います。

本会報は会員以外にも送付しております。趣旨協賛いただける場合、同封の郵便振込用紙にて、2014年度活動へのご協力をお願い致します。

IFCC 国際友好文化センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405

TEL. 03-3268-4387 FAX. 03-3268-6079

口座：中央労働金庫市ヶ谷支店（普）0858119 郵振：00130-9-425994

本会報は事業主催（IFCC）の植林プロジェクト特集となります

第19回植林緑化派遣団活動報告

実施：2013年9月27日～10月1日

香川県 筒井伸博

○9月26日(木) 事前学習会、結団式及び壮行会

都内麹町のホテルにて、佐藤晴男団長、社民党吉田忠智参議院議員らが集い、本事業の経緯とプロジェクトの概要及び植林活動の現状について学習、説明を受けた。

○9月27日(金) 成田空港⇒北京市⇒唐山市

早朝、羽田空港から北京空港まで3時間余りで到着した。青年連合会の羊さん、ガイドの劉さんの出迎えを受け、唐山市へ向け車にて移動。市内はスモッグのため、2キロメートル先までしか現界が効かなかった。唐山市までは大平野を横切る片側3車線の高速道路を使用。国土のケールの大きさか、3時間走り続けても目に入るのは沿道のポプラ並木と一面のトウモロコシ畑ばかりであった。

唐山市には夕刻に到着し、地元の青年連合会による歓迎会が開催された。

○9月28日(土) 唐山市⇒北京市⇒銀川市



遷西県プロジェクト地

午前中は車で移動し、河北省遷西県生態防護林事業地2か所を現視した。まず、今年の4月に植林した第2期事業地は、石灰岩で形成された岩山の傾斜地にヒノキ、メツメが植林されていた。風化した石灰岩が転がり、登り降りするだけでも危険を感じる高さ120メートルの事業地に植林するのは大変苦勞されたことであろう。途中、補植を行った。

石灰岩の産出量が多いため、近くにはセメント製造のプラントもあるとのこと。これほどの山々があれば、セメントの原料が枯渇することはないと思われた。

次に、第1期事業地へ移動。ここは、道路わきから高さ100メートルまで2年前に植林しており、ヒノキも背丈2メー

ルあまりに伸びていた。

視察を終えて、再び唐山市に戻り、歓迎会が委副県長の同席のもと開催された。委副県長からは「本事業は中日友好の象徴であり、植林により環境を整えることができると期待している。中国国内でも高い評価を得ている」と挨拶された。これに対して、佐藤団長は「昨年秋から尖閣列島問題が起り、政府間の日中関係が悪化し、一時、事業が中断するという残念な事態になったが、このような時こそ、平和、環境に関する民間交流を活発に行い、友好関係を発展させていきたい」と挨拶した。

歓迎会を終えて、車で北京空港にもどり、夕方のフライトで銀川空港に到着し、地元青年連合会の出迎えを受け、銀川市内のホテルへチェックインした。

○9月29日(日)

ホテルを出発し、石嘴山市恵農区生態緑化事業地へ向かった。第3期事業地は黄河のほとりにあり、



恵農区で補植

土質は黄土色のきめの細かいパウダー状であった。今年春にナツメ、柳を植林しており、活着率は80パーセントとのこと。活着しなかった箇所に関係者と一緒にナツメの苗木を補植した。去年7月の黄河の氾濫により第1、第2事業地が水没し、ほとんど全滅した経験を踏まえて、やや高い土地を第3事業地に選定したとのこと。ただ高い土地では植物の成長に欠かせない水分が少ない。この問題解決のため、新たに水路を開設し黄河の水を引き込み、灌漑しているとのことであった。

次に、第1、第2事業地を視察した。この地は去年7月の黄河氾濫により、1か月間水没し、根が呼吸できずに枯れてしまったとのことであった。現地はすでに水が引いて茶色の草原が広がっており、生き伸びた数本の柳が遠くに見えていた。

○9月30日(月) 銀川市⇒吳忠市⇒銀川市⇒北京市

銀川市を出発し吳忠市へ移動。午前中に第1期、第2期及び第3期の吳忠市太陽山開発区生態緑化事業地を現視して回った。事業地までの道中はこの地方では珍しく雨になったが、事業地に着くころには止んでいた。樹種はニセアカシア、クコ、マツ等で年間の降水量が200ミリ足らずにもかかわらず、活着率がほぼ100パーセントの理由は、黒いパイプを木の根元に這いまわして灌漑しているからで、その維持費にかなりのお金をかけているとのことであった。太陽山開発区の元の自然の状態は、荒地に低い灌木がまばらに見られる砂漠地帯である。この日は風が強くなかったが、普段は強風と晴れの日が多いとのこと、この気候を活かして、風力発電用の風車と太陽発電パネル大規模に設置されており、



黄河氾濫で破損した植林地には記念碑のみが残った



終了した呉忠市プロジェクト地

20キロメートル以上延々と連なっていた風景のスケールの大きさには驚かされた。ここでも一部補植を行った。
全視察を終え、再び、銀川空港から北京空港へと飛び、北京市内のホテルに宿泊した。

○10月1日(火) 北京市⇒成田空港

北京の朝は雨になっていた。雨のお陰でスモッグとPM2.5も薄まったようで、雨の上がった昼すぎには青空が広がり、遠くまでの景色も見渡すことができた。

この日は国慶節で国民の休日が一週間連続してあるため、実家に帰る人たちの大移動が始まっているとのことである。

今回の緑化派遣団は佐藤団長と私の2名だけであったが、どの訪問先でも地元の青年連合会や地方政府の方々の温かい歓迎

を受けた。政府間の関係が冷え込む中でこそ、ますますの民間交流を深め、人と人とのつながり、ふれあいが大切さであると痛感した。

**【2013年度助成金事業計画】
(2013年11月～2014年10月)**

プロジェクト名		
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト(済)	2002年度～2004年度	330ha
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業(済)	2004年度～2006年度	290ha
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業(済)	2005年度～2007年度	300ha
日中青年銀川生態緑化林事業(済)	2007年度～2009年度	180ha
日中青年石嘴山生態緑化林事業(済)	2007年度～2009年度	250ha
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業(済)	2008年度～2010年度	300ha
寧夏呉忠市太陽山開発区日中青年生態緑化モデル林事業	2010年度～2012年度	210ha
日中青年石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業(済)	2010年度～2012年度	220ha
日中青年河北遷西県生態防護林(最終年)	2011年度～2013年度	157ha

区分	河北遷西県生態防護林三期目	
	事業経費(千)	内容
植林	12,232	11万本(45ha)
保育	2,898	灌水・農業散布・施肥等
機材調達	1,109	農業散布器、水、肥料等
基盤整備	960	灌漑設備等
事務経費	705	通信印刷等
技術者派遣	700	派遣旅費等
その他	2,160	測量計画費等
合計	20,764(内、助成 15,500)	

IFCC 緑の架け橋プロジェクト 2012年度活動報告

2008年度(2008年11月)以降、「IFCC緑の架け橋プロジェクト」

として世話人会をつくり、植林緑化活動の継続を進めてきました。2013年までに寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業、寧夏呉忠市太陽山開発区日中青年生態緑化モデル林事業、日中青年石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業が寧夏回族自治区で終わりました。現在、継続中は河北省の「日中青年河北遷西県生態防護林」のみとなり、2013年度(2013年10月～2014年9月)が最終年度となります。

2013年の派遣団は第18回(2013年4月5日～9日、3人参加)、第19回(2013年9月27日～10月1日、2人参加)となりました。参加は寂しいものでしたが意義を掲げ灯を絶やさぬよう実施しました。

会報は2013年1月に20号、同年6月に21号を発行。「IFCC緑の架け橋プロジェクト」へ移行後、協賛金を呼び掛けてきましたが、大幅に賛同者が減少してしまいました。あらためて趣旨を呼び掛け、協賛を募っていききたいと思います。

【2012年度収支報告】(実績 12年11月30日～13年11月29日)

収入			支出		
費目	実績(円)	摘要	費目	実績(円)	摘要
繰越金	0		事務所間借代	0	240,000未払い
協賛会費	78,000		通信・送料	106,570	60,000未払い
植林協力金	50,000	18,19回派遣団	事務局費	372,863	
寄付金	0	IFCCより	事業費	939,960	派遣費補填
賛助金	459,735	参加者より	印刷代	215,486	会報2回含む
助成金①	939,960	派遣経費、基金より	備品・消耗品	13,344	
助成金②	599,000	事務経費、基金より	印刷代	459,735	11年度分
会場費	62,000	学習会参加費	返済金	89,467	11年度借入
借入金	0	IFCCより	未払金	0	
雑収入	0	団費余剰分	雑費	29,660	利息、送金料等
計	2,188,695		計	2,137,618	

【2012年度貸借表】単位・円

貸方		借方		借方の説明
通帳	0	郵便振替	0	返済金 250,000 立ち上げ資金 250,000、12借入金 0
現金	51,077	助成金	0	12農区 36,230 12呉忠市 78,278 12遷西県 156,235
		計	51,077	
		未払金	300,000	12事務所代、電話代
		計	820,743	

なります。プロジェクトの最終年となりますが、サーズ禍の時にも頑張ってきた植林活動派遣団を記念訪問団として9月に準備していききたいと思います。

- 河北唐山市の日中青年河北遷西県生態防護林事業・調査 2014年6月(予定)
- 第20回 2014年9月26日(金)～30日(火)・予定(補植)
河北省唐山市の日中青年河北遷西県生態防護林事業最終年、の他、寧夏回族自治区で実施したプロジェクト地の保育状況を視察します。

最終年度の活動計画

I. 会報「緑の架け橋」年2回の発行

II. 協賛呼びかけ

最終年ですが、協賛を呼びかけていきます。協賛金の目安は個人一口×3000円、団体一口×30,000円です。すめすめ。

III. 植林協力金の要請

植林活動参加者1人の植林協力金を10,000円として要請します。

IV. 植林緑化派遣団の実施

2014年は、緑の架け橋推進プロジェクトが活動を開始して以来、12年を迎えることに

2013年度(2013年11月~)

「中国植林緑化活動協力事業寧夏回族自治区・河北省唐山市での事業実施図」

